

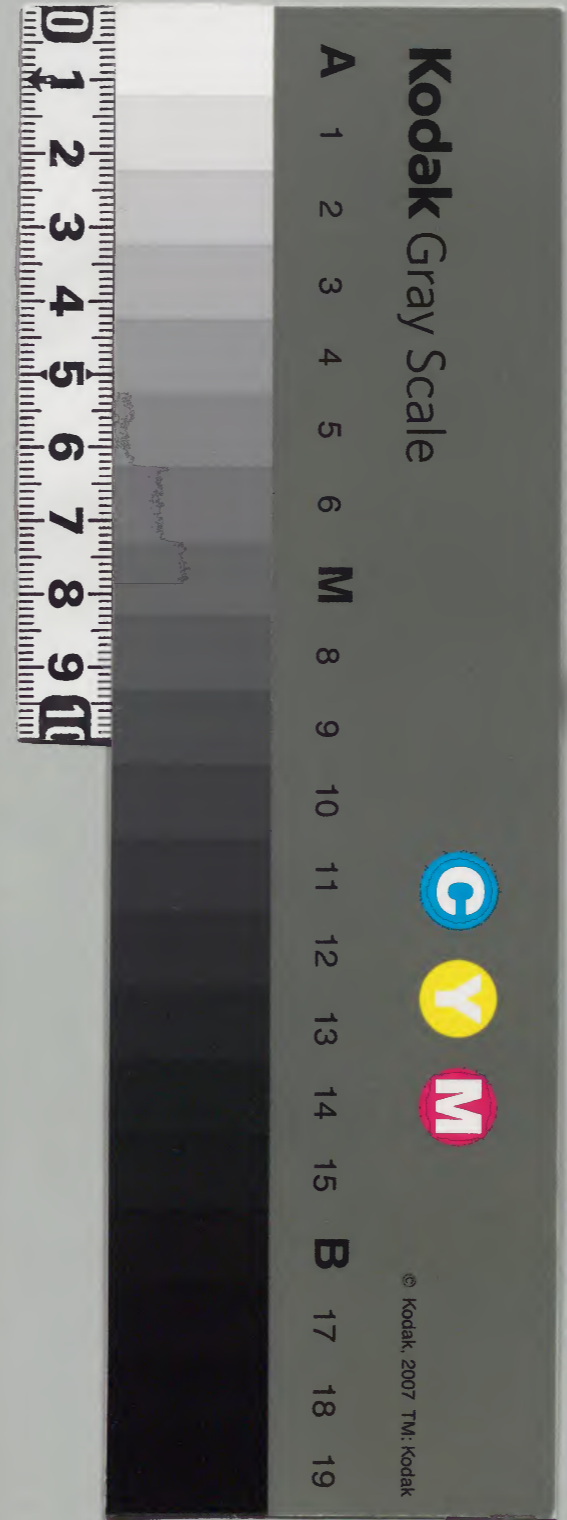
伊勢参宮名所圖會 三

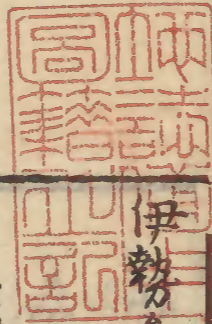
和書門類	29021	29021	29021	29021	29021
函號	172	317	172	317	172
架冊	6	3	6	3	6
冊	6	3	6	3	6

和書類	29021	29021	29021	29021
冊	6	3	6	3
函	172	317	172	317
架	6	3	6	3

內閣文庫	番號	和 29021
	冊數	6 (3)
	函號	172 317

地三四





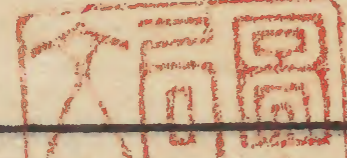
伊勢參宮名所圖會卷之三

目錄

丙 一〇八四二號

東國伊勢參宮の御道より別して津の江戸橋へ出れ
其の御道新名を始めて一〇八四二號

- △素名驛 くそなのまじり
- △江場有王丸塚 えばありわらうまるのつら
- △式部清水 しきぶのみづ
- △天武天皇御宮 てんむてんのみや
- △井尻神社 いじりのじま
- △三重川 みやえがわ
- △追分高岡川 おひわかたかおかがわ
- △矢橋 やばし
- △白子 しらかこ
- △同三橋大洲社 どうさんばしおほしう
- △天澤山龍光寺 あまざわのりゅうこうじ
- △長右津崎渡 ながみぎつさきわた
- △白子観音 しらかこのくわんおん
- △尾野神社 おののじま
- △中臣神社 なかつくみじま
- △七里渡 しちりのわた
- △所屋川繩生 しよやがわなづな
- △朝明川 あさけがわ
- △西富田三光寺 にしとみださんみくわうじ
- △龍室山妙見寺 りゅうむろやまのたみみじ
- △素名液口 くそなのりやくぐち
- △金井小向 かねいこむかひ
- △鳥出鳴海社 とりでなるうみ
- △日市 ひいち
- △諏訪神社 すわがじま
- △四豆公山観音寺 よひちのこうさんくわんおんじ
- △金井林光寺 かねいりんこうじ
- △玉垣 たまがき
- △三市 さんいち
- △栗生神社 くりのうゑじま
- △上野村 うののむら
- △天澤山龍光寺 あまざわのりゅうこうじ
- △長右津崎渡 ながみぎつさきわた
- △白子観音 しらかこのくわんおん
- △栗生神社 くりのうゑじま
- △上野村 うののむら



△本後、押回。被長
△夜手山
△酒舟神社
△根上り松

△江戶橋。箕石
塔世橋 塔世門
塔世天玉寺 善作寺

津 安濃津
愛宕権現
惠育の観音の御寺

大樂の上宮の寺
安濃松原 安濃津田
岩田村 岩田松

岩田の園明寺
岡麿寺
八幡宮 石橋

△洗見 乙部玄庫
△志布見神社
△矢野
△小加良須御茶社

△望合社
△志津浦△雲津橋
垂水 日成社
小野右江渡

上野 茶屋
雲津川
六彩茶屋。渡川
須川。肥田山

小勢 佐貫
中道。小津
△岩方片植宮舊跡
△東明山景德寺

曾原 右藏
△阿坂神社 阿坂社
△白米城跡
△若方片植宮舊跡

忘井
久米。塚本。松江
利隴山薬師寺
△五百本林

松坂驛
愛宕山龍泉寺
光明山遍照寺
少名彦名祠

梅松山菅相寺
△先福の朝田寺
△長田祠
△河嶋△清水

△七見 日社
△意悲神社
△下樋小川
△榑田 五智如來 大根社

榑田川
△麻績機殿
△魚見社
△大國玉神社

保津 天香山
再拜橋
齋宮村

齋宮舊蹟
△勝回△和屋
△藤原
△御袋△淡村

北畠屋敷
△大波
△上野
△宇田 大乃自社

根倉 旧神社
△湯田野 旧神社
△明星 安養寺

有尔 有尔神社
△熱合橋
小窪橋
小俣 日社

明野原
△離宮院 新社
△未曾瀨

板田橋

出皇天爲天同



桑名港口



羅山文集
 曾聞二帝此停車
 憾在吾邦未見書
 今聞先蹤人不識
 誰廣風土補方輿



同天武天皇社

三陽明







四日市
諏訪大社の明神





代神樂の素名の
 近村を代村の
 名を代村の
 庚申の代村の
 離れの月物たるべし
 放下とぬとろ其旅
 をとるに



長明渡海記
 日永追分
 仍佐ぬ
 いさ濱
 五
 新明
 日永
 ちんま

渡海御免に素名と日と

○諏訪神社 祭不建御名方命八坂刀賣命之に日市町其地と江

荒田と云此社赤坂家の重宝田原友秀の胃あり

○三重川 に日市の町内石橋あり又三里より川上あり

吾等三重川系のことろにわたりかきとく桂も 伊保唐

濱田 田の渡村と云 に日市より

日永 海村のてき進みより名産園扇 ○田島川 ○長田川 ○

かえけ川 ○落合川 ○錢亀川 ○加太支川 皆橋あり日永町の中より

四足八鳥山観音寺 渡宮内流しと云泊り村東より 後花園院勅願岡山良

忠上人 傳云神武天皇東征の時軍利あり 太神宮并依りて 其八咫鳥をわたり

と云陸路見るともこのゆかりに足八咫の上り本宮と云

御大和森と云

昨日より今日まで日永なる洲橋に足ありり乃一村 西行

追分 分と別ハ修勢あり 大鳥居あり

高岡川 橋あり泉川関川の流れて大川之此上流を加太川と云

世人のひろく云りし一まより甲斐川約ハ和泉野のそ

○天沢山龍光寺 神戸の後花園院勅願所 北島大納言滿雅公建立云

神戸 一里あり昔花園中神戸に不の首は是居 兼倉權五郎景政塚 田中の

飯野社 神戸の西あり 祭神飯豊姫命 神戸 人具盛の町市村也

○金井林光寺 神戸の西あり 聖武天皇勅願所なる千手眼観

世音福壽院亦号地藏坊善言宗之

矢崎 神戸の南 石標あり 右橋あり 兼倉權五郎景政塚 田中の

○長古此浦津橋の渡り云右渡之 昔は尾名津橋への渡海あり 其橋所

あり保よりはくまれ渡りて中よりぬきりむけてるやうに云

舟人のつゝまのりり波たると見まうと云やこれ世のうん 中務卿と云

所名 河曲部

所名





津

江
戸
橋

○若松一里海濱惣司の湊之天平十二年十月聖武天皇倭勢圍於幸の府

○三日市野西の西如來寺延在帝勅願所少て三尊佛を子像あり

○玉垣白子の古名○弥都加伎神社式内にて糸津土植社

○白子本名寺村白子の俗稱也南の菴藝郡より小川を限里川

○曲郡之人家一軒餘繁昌の湊也此湊の白子湊と云ふ

○白子湊白子の湊

○白子湊白子の湊

○白子湊白子の湊

○白子湊白子の湊

○白子湊白子の湊

○白子湊白子の湊

○白子湊白子の湊

所名 郡藝奄

所名

○栗真神社白子の式内今勝大明神と云大室三

○皇社糸津赤蓋鳴尊高田流春日大明神社已上在

○青龍寺高田流

○上野村宿驛也

○大別保村尾糸神社式内にて糸津天綱女命糸尼布里大明

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

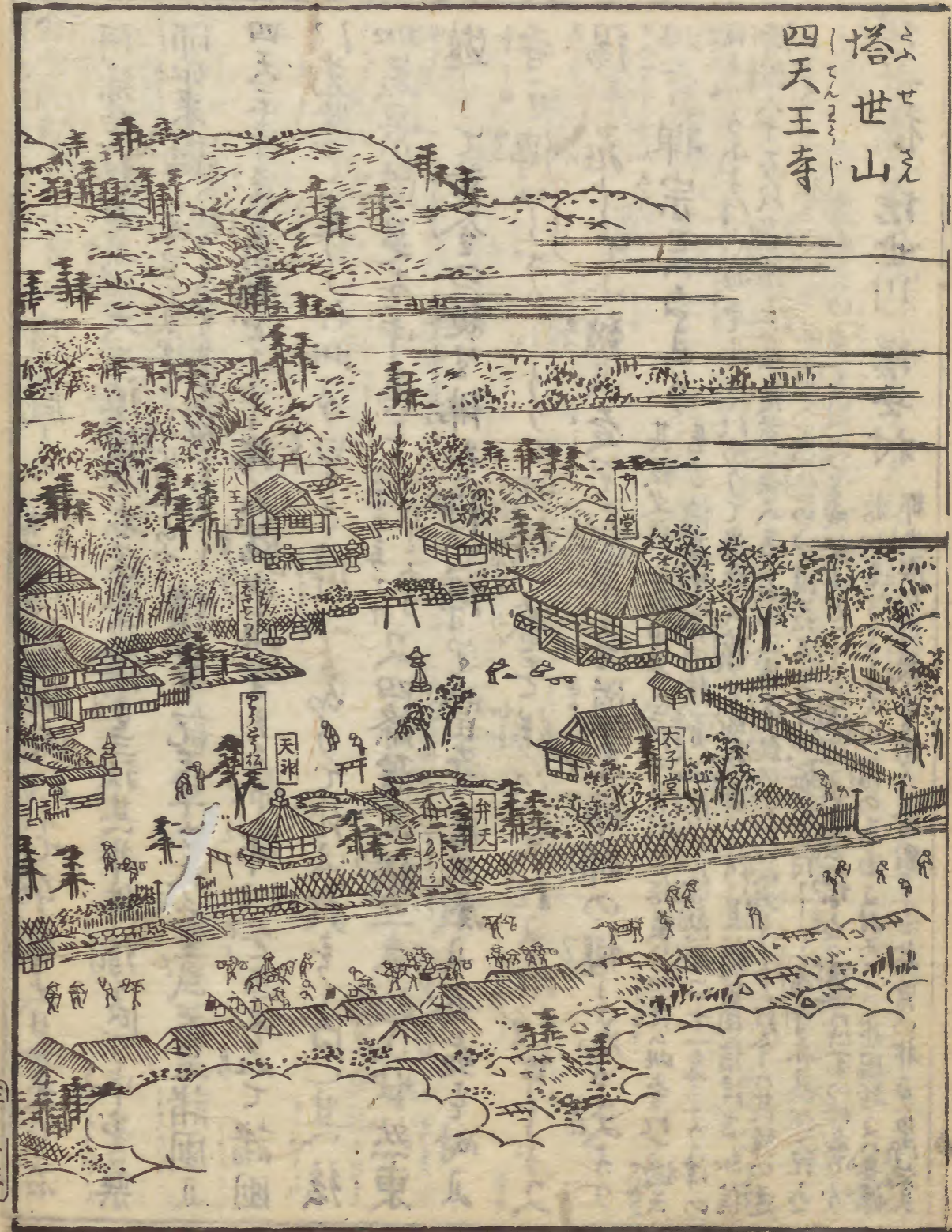
○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

○糸津小黒田村今指原大明神と云三社

塔世山
四天王寺



北畠源國永卿家集詠藥師
名号和哥十二首 阿弥桂祐
八重しのあやうく
晴夕を記を
さつき夜の月
餘畧





御新二月朔日御
 として御堂内へ御
 衣敷丸調よおの
 深きの者候と御
 御代をきてお十人
 物おん院の花瓜を
 先驅として思沙門一
 位大掛孔と御と御
 立出る鬼も具足して
 命を拵合を人々
 御根と擧げ御堂
 走入るこれ又御派者



惠日山
 観音寺
 鬼おの祭
 阿彌陀

御新二月朔日御
 として御堂内へ御
 衣敷丸調よおの
 深きの者候と御
 御代をきてお十人
 物おん院の花瓜を
 先驅として思沙門一
 位大掛孔と御と御
 立出る鬼も具足して
 命を拵合を人々
 御根と擧げ御堂
 走入るこれ又御派者

阿漕の菱紙の
意を寫し尚本校
のこぎの糸やよ
かすり



後照念院
關皇政大臣

あこぎが
うたせ
あふたが
うらみ
ても
うら
るる
を
ちきう
のち
を

阿漕浦



武直會所贊の船玉貫の鮑刺榮標のを洞進とす掛津石のありたりなり
津 七十二所と云工商船をかうへ繁花富饒の地也○あを津と云
右私名海濱の湊にてありたりなり旧名安濃の津と云とつと云く津

とのいひるなりひうたうるべし
首修務津の供奉の神は籠雄と云る

武天皇十代の後亂出羽守平正樹の三男安濃津三郎平貞樹より平氏殺伐の位居て世後
明徳三年八月七日七月七季六月十一日及夏の大地震安濃津十八日沈没せり此の
の地へ移さる其後文祿の頃今の安濃津へ細路九郎左衛門尉兼敦城を築きて後天正
十一年より織田上総介信包城とあり坂石垣を構へり又天正十八年夏回家城を築き長
ある城下屋敷と云ふなり

附言 亞將源親房卿河津考と云るありとの津の物語にてを河津といふ一
此の文をり其書云ふ所なり

河津の名りより河津なり格武の文にあり代々の和歌多しき修務守鑑蔵記に
河津と云ふ其書やまらるる國の人のいへる付は修務又河津ありきやと云ふ

のゆかりのやうに安濃とて作り是は國の國帳にて民のつとまはりては修務
のゆかりのやうきせぬ今河津も其のゆかりのやうに平家のむらう此國よりそまらる付は
の宮とていへりも修務とて今河津の傍にありては修務と云ふは本を修務と云ふ

の宮とていへりも修務とて今河津の傍にありては修務と云ふは本を修務と云ふ
楠の社とて修務とて修務の傍にありては修務と云ふは本を修務と云ふ

凡の修務とて修務とて修務の傍にありては修務と云ふは本を修務と云ふ
○愚按河津の訓ハナナ津と云ふ一河津を定とよむ河津あり

坂士傳多清記云 修務國安濃津と云ふ一河津を定とよむ河津あり
て浦邊ありて修務の私人の月瀬發流の曉の修務と云ふは本を修務と云ふ

びとく作り一河津と云ふ

凡さむいそやの枕差を免くよそわらう浪よぬき神と云

愛宕山 橋の小西 これを愛宕授現と云出城の子の方狹まるとて塔は八

惣社之延喜式社名帳に比佐豆知神社とあり是也 白子にも同名の社

惠日山観音寺 本尊如意輪観音石像 縁起曰元明天皇和

洞二年乙酉二月二日安濃津の浦より漁夫の網より出て出現と云

奇瑞叡聞に達し勅みよみて伽藍造立ありしに慶長に年廿兵火

に焼亡し其後造立きて真言の僧房奄藝郡窪田村の内蓬葉

山六火院をここに移さる 今の火宝院と云本坊也 都合今七院を同伽藍の地への

松原の遠うみゆしと云又安濃との河厨とも云河厨が浦河贊のをりよは

寺なり其名跡うらふや。河厨のゆり既云ふおと。毎季おれを

鬼押への神と云其式

二月初日未の修心會の法より修る花は南番の氏子を竹と拵て

エイクと云て駈入る諸人も共々群衆一同音又エイクと

香良洲
御前社

多気密雲云
荷西多かす
まうて廟瓜
ひえりかど
舞くおさ
ひとを羽の
文字より
いとし
そのね
とよみか
虚をい
かた
あま
そら



か云むうーハ
此の鳥とさ
龍がうり
按るは雅日女
祭の鳥の縁
さき
やん
祭後六月十六日
又此神若白
おと紙の色
やういー蘆芳
を具ふつして
又准て持おとす
の俗か
女神をい
をー



雲出川

雲づ川

あぶらぎ

うらもの

細抄

竿

かしの島

りく

族人

栄雅



三度大塚をあらぐ
又供物ハ鶴の子ノ芥
又牛玉頂裁の儀式ありて
羽衣朝能三番ありて
又牛玉頂裁の儀式ありて
羽衣朝能三番ありて
又牛玉頂裁の儀式ありて
羽衣朝能三番ありて

困府の阿弥陀佛
富國珍麻郎困府村上寺
大樂山上宮皇寺
聖徳太子の宮

元ハ律宗して今ハ高田
十六文の像
阿古本社
明應七年の地震

所名

安濃松原
此邊の邊
明應七年の地震に城下松原とも波に沈り其

西坊法師垂水成就寺へ
 参りて多う小童儀の本よ
 うきのぼり多れをみる

さる児と

とれよう

そくおみ

のぢう

とらひきれが小童

大の母

法師

来れを

とけう西坊

不思議のちいと

かうぬ



所名 所名

若津の町と海との間ありしと也
昔は松東道へも大船が
 船敷基より色もきよなりし

いせの海あり松東の町ともいひ一日教ありといふ

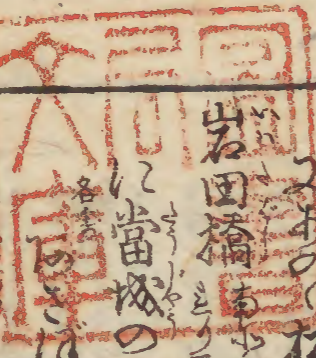
安濃湊田 名寄 田渡と何の湊田の町ともいふぬも久ぬありたり

安濃河原 神凡やいせ橋と何の河原と何の河原と何の河原と

いせの板橋の町ともいふ説くあれが略すともいひ地未詳

岩田橋 市や架湊の町なり湊と此橋の下とある入此西北の橋の西側

に當城の岩田口ともいふ附あり



岩田村 名寄の村 舊い妙機にて古神宮の毎機織るるをと個出とあり

北島材親郷の記あり

阿古本浦 今津の城下岩田橋より異なり

阿古本郷 往來の阿古浦より東の方海邊にあり

所名

所名

文保六年百首

雲津川せれ入くまける苗代は秋の産こそ兼て見んらん

俊頼

所名

此川勢南勢山の麓之小畠園田の勢南を治めしに於て永福十二年信長修勢を討んとするにまづ本道を味方せしむるに國司貞教御大志里松林本道の人質よかると娘と其母とと此川に於て刺殺せしむる勢州軍記

所名

小野右江渡 小野の流も指不洋 末清記云 雲出川のまを渡を去のこ小野右江渡なりと云ふに云ふにやりの出せと云ふに右の此ありて渡邊をのこ通りたるに刀をとりて其母を討つるの條に八月十一日毎日隨進川及び徳八月毎日臨尾野添ぬ瀬と云ふに川と云ふに川より長木 づー海波毎のいもあふりてや、揺えりかのいづのりー 長明

所名

小野橋の海小野のこまは流と川のなりてもつらん人の心さ 後後撰 小野橋の右江は架りたる瓜之足と沖後の橋とも云ふ

所名

須川 雲出川の尾宿 肥田 肥田 月本 須川の尾宿 此石大和街道のふららる 阿保城 又修勢 須川に云はれり

所名

曾原 磯貫村より一里半より二里半の甲合村の 古城趾 同村左の尉善治云 三渡濱 曾原村の左の渡今六町ありて川の流の海をさし一町のまをまきつて一渡りひのりて波の刻一舟 末清記云 松尾のつとを三渡の渡りもつとぬをたつ入海は向ひて旅の人の体にと といはれり

所名

中道 此石より川の東のりて河津と云ふ 三渡のちなるれは中より村と云ふなり 小津 中津村の 左の方より牛頭天王の社あり 六町茶屋 又三渡り村とも云はれり 渡川 三渡り村あり 三渡りの裾に流る河川神園山のまへにありたり 渡人云

所名

阿坂山 一名神屋 心法山浄眼寺 阿射賀神社三座 嬉野 阿坂の社跡 畧々これを小阿坂と云ふ 林祐百首 一社と云ふのつせー茶の系つては神と云ふ阿坂なり 度會元長

所名

白米城趾 小畠満雅卿應永三年薬く于時足利義満よりこれを取てのらにぬを名切御山 畠方片桐宮舊跡 門板の末 東明山景德寺 小阿坂村の北にあり 末清記云 畠方片桐宮舊跡の付志母と云ふなり

所名

忘井 御石を入方入の標石の記に国源内の書に傳ふ小社あり 天仁元年 畠方片桐宮舊跡の付志母と云ふなり 十載集 けつと約都のくれきーきふいどむとびん忘井あり 末清記云 按るに此右路一里むより西郡村と云ふなり 郡女宮の跡に後此村まへありたり

所名

久米 塚中 松江 村内八幡宮あり 新羅山薬師寺延命院 右あり 信濃松江の薬師と云ふに子安地蔵を安置と云ふ

三渡川 今川

長明経勢記又三まうり
とふふり波干ぬきは
あるこれ碇よりかきこの
さるへりかえりふふり
ぬきは松碇とふふり
まうり若原満ぬきは
あいらははえまうり
で高遠く老なり
市場とふふり
ゆれ波干ぬきは
ひ其りりの三ま
ふまの三まうり
ふまうり

三まうりの
碇とけり人通



ちんぬり
おまのちんぬり
かき

長明

源川を後世の
昔此やうり海甲を
ありし其碇の波の
退く間をむむむ





西庄の橋より見る水の上
 月郡下仁持村并各系并海
 より物く石持村を東へ流る
 橋師平尾村の東へ山へ流る
 海へ入る



まつざつおん
 松坂大橋



愛宕山あたいざん

龍泉寺りゅうせんじ

愛宕権現あたいざんごんげん

言宗に似てむい加蓋と

○古城社 村の九條ありあり園の

四五百森

今の松坂の沿の古名を以てを城の中にとりてはまうに藤生を刺してはまうに藤生の沿園とも云

この園に八百の森のかとて名をのり捨りて去年の古名

松平驛

津より入里 元天正十二年甲申浦津に飛騨守氏御松坂の地を以て八百森に名をのりて

愛宕山龍泉寺

松坂の地を以て八百森に名をのりてを西庄の地とて松坂を名に以て八百の森なり

弘法大師御願の地とて古園一志即松川の中の大伽藍にてありて大権現

庄中の後寺に似て後仁文明の頃までい山麓としてありて大権現の地とて松坂を名に以て八百の森なり

島の前地とてあり松川寺といふを惣号にして坊舎数あり但し下坊に龍泉寺といふあり今も古寺あり松坂山門の園の名に似たり天正九年園司

減之の後寺坊舎なくとて教養一尚寺も僅なるを遺して松坂の

松内平生村(遺後)より松坂村とて松坂を名に以て八百の森なり

其の地之其後天正九年三月正親町の院の勅所となりて藤生松坂の

の地を以てせらるる尚御松坂より松坂の御書を撰り松坂を名に以て八百の森なり

かゝる地を以て松坂を名に以て八百の森なり

光明山遍照寺

十五里ありて松川河あり此寺を以て松坂の人芭蕉家を建てる松坂あり

少彦名命神社

松坂の地を以て八百森に名をのりて

光福山朝回寺

松坂の地を以て八百森に名をのりて

長者の街

寺より二町西南にあり

長回社

一名松坂又天王権左

松神恒安社

松坂の地を以て八百森に名をのりて

清水

松坂の地を以て八百森に名をのりて

汲人

松坂の地を以て八百森に名をのりて

天て

松坂の地を以て八百森に名をのりて

七見

松坂の地を以て八百森に名をのりて

七見

松坂の地を以て八百森に名をのりて

松神恒安社

松坂の地を以て八百森に名をのりて

光福山朝回寺

松坂の地を以て八百森に名をのりて

長者の街

寺より二町西南にあり



河の青秋葉掃をなごり
 舟人板敷みそよりて掃田川と
 又之首の下極小川此を出入り言
 川入後いしと

三つが
 くーた
 川あや
 三つれ
 事だ
 神の
 あり
 うら
 御ねん

御田社

三つが

御玉社



川
 田
 掃

三つが

▲**意悲神社** 飯高飯時代 垂仁天皇廿一年癸丑十二月廿八日飯時高の宮

▲**飯の宮** 飯高飯時代 今を神饗宮又神立の森神

▲**下樋小川** 右の宮の東より小川あり其を首内親王其外勅使大御宮の境より

▲**此川** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**大御宮** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**大御神社** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**大御神社** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**大御神社** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**大御神社** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

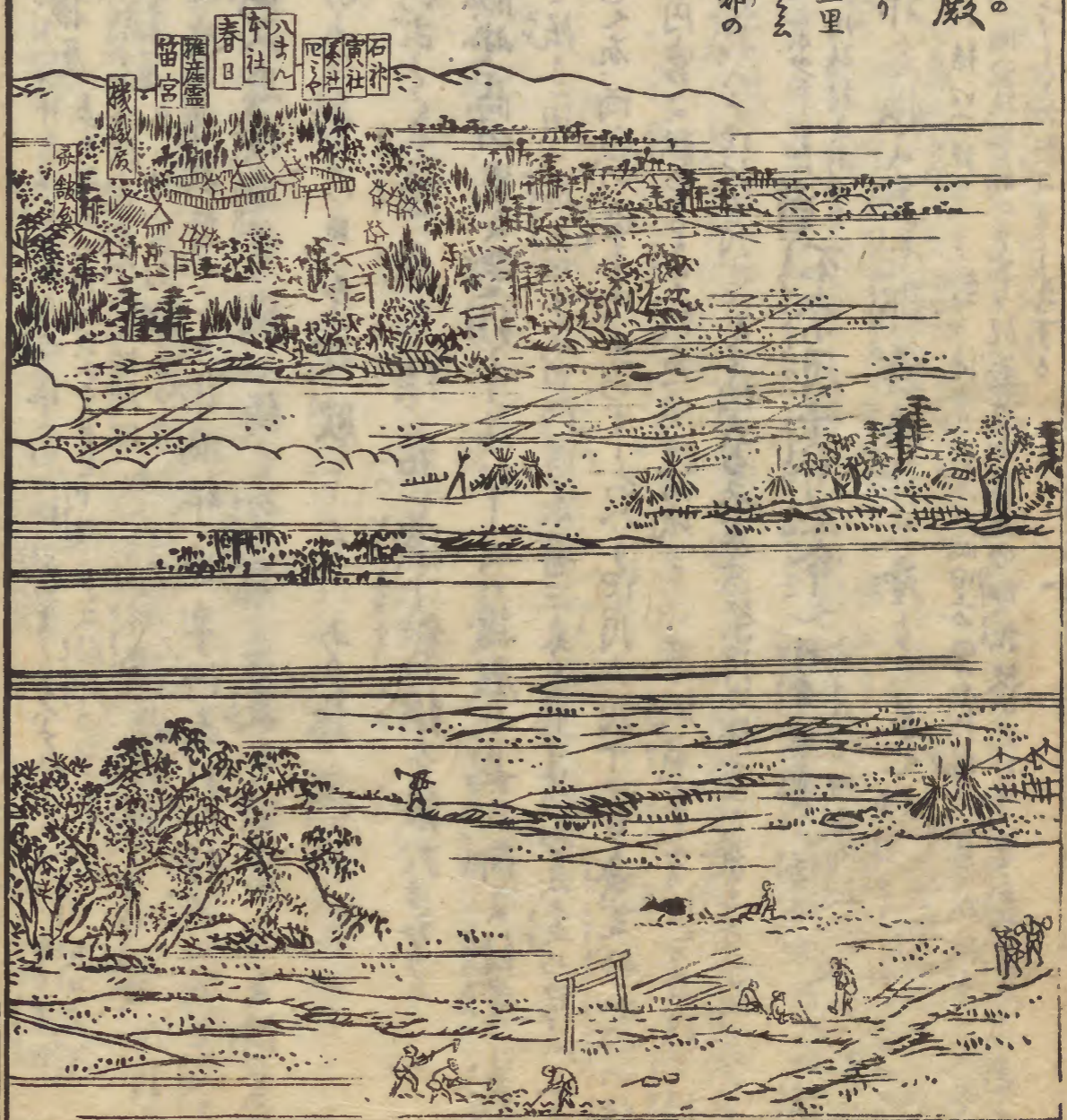
▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

▲**飯野野** 飯高飯時代 此川は御下樋の末より

八かきとこの
 神麻凌機殿
 其に村あり俗
 上鉦といふ名
 御系の里
 〇い系海なる所
 相鉦といふ



えとよりとこの
 神服機殿
 大垣村あり
 松塔より東二里
 佐下鉦といふ
 又古名服部の
 里といふ





稲置川 舊名竹川
 又後川とも云
 昔勅使を安んじしうまうて
 後を修らる式ありしに
 近頃の後として下桶小川
 の後川を境とす

〇三浦村
 ありし是と後
 森とす



世とはさるる本
 とのこころを
 今も本を右海
 又植うると内天
 の社あれどもも
 に行はぬ教宮の
 ちれしと後よと
 御宮とらへハ
 湯のりなり

秋宮の表



齋宮村
 創幣使休
 和泉屋

齋宮旧跡
 俗に女宮の表

築師
 未詳記云 故宮み
 録りぬつう一の築
 地の既とわがてま
 本の云さしやあり
 ち居の橋跡りな
 う屋よよこたれるを
 人たしとかくとも

張る所

五神

大園玉神社 去御祖神社 六根村より此系
保津 六根の ○天香山社
社系神千く姫命之 正月七日より御祖にて親業義と六根保津七見鬼命等

氣川 楠木川 又後川 今の程来より北より古道あり昔より勅使と家より

逆へたり後と傍との式ありたは後戸の森と云ふもあり今より宮川より其
式終る歎宮群坊の付も若狹の後ありて 此の如く伊勢の境より見れば

竹代よりともかきぬ竹川の代々を看んてかきぬと云
此の如く馬鹿れり出たり昔齊宮より一せし時より格ありて其の傍より花園の如く

再拜橋 幸より後川の傍場を来山より乃勅使表より向の附より川よりかけり格あり

いづつれとていひの格授事の名もさしとひやまむや
今此格授の如きは伝説に小児後生のまじりたるは縁ありともいつり。程来の

齊宮村 全別はのつて昔歎宮ありたは号く 今歎宮の本村又歎宮の宮とて二子不に分く
齊宮舊蹟 即歎宮村に里入ると今歎宮の本村又歎宮の宮とて二子不に分く

とも齋宮齋王別後よりあはれ 歎宮の宮のつては 今此格授の如きは伝説に小児後生のまじりたるは縁ありともいつり。程来の

一方の表より両長官より制れをさる 又是を歎宮又竹の宮と
つて一郡を多尋の都と云 此の如く竹の宮の宮のつては 今此格授の如きは伝説に小児後生のまじりたるは縁ありともいつり。程来の

常盤方竹の都の石のつては 今此格授の如きは伝説に小児後生のまじりたるは縁ありともいつり。程来の

竹の宮よりたよりてみ代までほいゆらんこの若そこれ 俊成
歎宮とい昔天子御即後より卜定の式ありてそきたりゆひ結ひて皇女を

皇大祚の御枝の代よりて家よりたよりて若しゆ結ひ宮殿るれば宮舎の敷
多く若きもゆり

皇女都をさしせり付 其の如く結ひたると云ふより今歎宮群坊より中せし
幸実の江波より委し。皇女内裏をさしせり付天子自撰瓜を因親

王の額よりせし都の方へ延と結ひたると云ふより今歎宮群坊より中せし
齋宮瀛觴 垂仁天皇二十六年の比倭姫命よりゆり其の齊宮の度會郡守

治の御入十珍川上の大宮の源より系より天皇二十五年庚寅倭姫命より既み
老老をいはるすつるすつるすつると景行天皇第五の御女五百時皇女久須姫

大淀濱

伊勢物語
大よこに濱

舟へて入るれ

かゝるる

かゝるる

大淀松 西大淀村出

今
舟へて入るれ

あらまき

かゝるる



建保三年范宗書

大よこに浦

群居る友路の

あま日くげ乃

をどのと

は泳心よどく秋の風
あぢはゆきふ小橋
あやんの傍に群
あはれはらふを
あせもこころを
あま日くげ乃
あま日くげ乃
あま日くげ乃





明星

の星乃茶屋

をうご

よひま

入着

あつ

し

浅

三十一

所名

▲大渡濱 信濃

○大渡松 大渡の濱あり昔倭姫命皇を祓の神輿を置け方と

大渡の沖後歳昔にありぬらん神さひひつら破の姫まの

歳昔経て朽け松と大渡の恨とて帰る波又同をや

若くも経くそわつ大渡の松れふと世ハ八子代をよと

▲大与杉神社 祭神豊玉彦神云式内之

▲村松岸 大渡の東の村ありて津辻幸の地なり

▲宇田 天海回水大乃自神社 祭神豊玉姫命

▲有介 田丸より 有介神社 祭神天穗日命土師氏の祖神

▲曙の宇田の畔 宇田の畔より三嶋の畔より

▲有介 田丸より 有介神社 祭神天穗日命土師氏の祖神

▲有介 田丸より 有介神社 祭神天穗日命土師氏の祖神

▲有介 田丸より 有介神社 祭神天穗日命土師氏の祖神

所名

所名

所名

小侯離宮院舊址



中臣氏社
春日明神

内外神宮造拜所



小俣

高宮寺の松林
 高宮寺の松林
 高宮寺の松林

小俣社

小俣

是より南に田丸村あり
 村中田丸禪正大禰の靈祠
 田丸城 虎藏王康基寺
 此内又指まき入
 の古蹟あり
 西の山岩手 波糸屋家宅
 此 相可入の相可上社
 富向山田宮寺
 那野山 木多社
 伊藤神社 伊藤村あり
 飯高 高宮 此余
 名區多々あり
 此より



毎年内宮にて六月十七日九月十七日外宮にて六月十六日九月十六日
足ぬものとして宝殿へおはせ行つる物と云ふと人の言はれ

湯田村

同丸の東之麓大の野をうらめく武蔵野のぶく明神と云ふ
此石の内をて東西三里余南三里と云ふは日ト村なり

竹川

竹川再出されり ○流は此川と云ふ今小川と云ふは源は流の西より出
一注はまうとの ○出羽村の南を經て度會の村時村の西より出湯田郷の南をま

竹川

竹川やゆた村瓜んまはまうくとふ田の系は松の墨と云
長明

湯田村

明神の茶屋 湯田村社 不祭雷電社 式内之村の内
あり

多引石

明神の東の山 日本紀より人引石と云ふなり 和名抄より引石と云ふなり
人引石の西の山なり

此を名

此を名をとると其瓜瓜と云ふは是か小侯離宮院へ出る古石なり

君

君より湯田村をまけてひろひつる多引の石は流のあふき 俊頼

上野村

俗に明神と云ふ小宮村のつぎ ○中明星 新明星

安養寺

安養寺号長松寺 上野村にあり 十面觀音洛陽東後寺麻元大惠佛

通禅師

通禅師の草創なり 首大寺あり 今に終み中菴とありて

おる

おると開山の像を安んせり 天のれより

明野の原

明野の原 明野の東二面は明神と云ふなり 明野

月法と明神が系の夕露と云ふはかろ衣とぬまぬ 仲夏

惣合橋

明野と小侯との間あり ○小穴佳橋 小侯の

小侯

小侯 宇野西村と云ふ ○板田橋 西の内は小穴佳橋なり 板田

磯波

磯波 伊勢國と云ふ板田より南にあり 磯波

をいつれ板田の橋のと云ふと云ふは善信法師

傳曰

傳曰 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

菅院

菅院 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

死骸

死骸 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

佛通

佛通 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

建法

建法 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

私

私 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

茶

茶 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

構

構 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

茶

茶 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

明野

明野 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

月法

月法 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

惣合

惣合 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

小侯

小侯 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

磯波

磯波 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

板田

板田 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

善信

善信 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

法師

法師 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

橋

橋 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

橋

橋 菅院の御時大惠佛通禅師 兩宮(日系)の時路次は女の死骸ありとあり

